

## 線型空間 その2：線形空間の公理

**今日の目標**：以下の事を理解する。

1. 部分空間：「和とスカラー倍に関して閉じている」

$u, v \in W$  :  $u, v$  が集合  $W$  の元であること

$u + v \in W$  ,  $ku \in W$

先週

1.  $n$ 次元ユークリッド空間
2. ベクトルの概念の一般化：線型空間（ベクトル空間）の公理  
ベクトルはどのような性質を持つか

定理3（教科書 p.161）

（「定理」とは：複数の公理から論理的、数学的に導出される命題）

- (a)  $0u = 0$  を公理を使い証明したい。

$$0u = (0 + 0)u = 0u + 0u$$

$0u$  には  $0u + v = 0$  をみたす逆元  $v$  が存在する。

$0u + 0u = 0u$  の両辺に  $v$  を加える。

$$0u + 0u + v = 0u + v$$

$$0u + 0 = 0$$

$$0u = 0$$

- (b)  $k0 = 0$  を証明。

$$k0 = k(0 + 0) = k0 + k0$$

$k0$  には  $k0 + v = 0$  をみたす逆元  $v$  が存在する。

$k0 + k0 = k0$  の両辺に  $v$  を加える。

$$k0 + k0 + v = k0 + v$$

$$k0 + 0 = 0$$

$$k0 = 0$$

- (d)  $ku = 0$  ならば、 $k = 0$  または  $u = 0$  を証明。

$k$  が 0 でない場合を考える。

$$ku = 0$$

両辺に  $1/k$  をかける。

$$u = 1/k0 = 0 \quad (\text{(b) より})$$

次に  $u \neq 0$  で無い場合を考える。

$$ku + ku = 0 + 0 = 0$$

$$2ku = 0 = ku$$

$$2k = k \text{ の解は } k = 0 \text{ .}$$

#### 4.3 部分空間 (教科書 p.163)

定義:  $W$  は  $V$  の線形部分空間

線形空間  $V$  の部分集合  $W$  のうち, それ自身も線形空間になっている線形空間.

- $W$  のベクトル  $u, v'$  に対して, 和  $u + v'$  も  $W$  内に入る
- $W$  のベクトル  $u$  と数  $k$  に対して, 定数倍  $ku$  も  $W$  内に入る

イメージ:  $V$  内のベクトルは無数に存在する. その一部分の要素だけ取ってきても, 線形空間が成り立っている.

例

- $R^3$  内の原点を通る平面や直線は,  $R^3$  の部分空間になっている (教科書 p.164 例 11)
- 例 12-15

線形空間の次元: 与えられた線形空間  $V$  は何次元か.

一次結合 (線形結合とも言う)

$$w = k_1v_1 + k_2v_2 + k_3v_3 + \cdots + k_rv_r$$

教科書 p.168 . 例 16

定義

線形空間  $V$  のベクトル  $v_1, v_2, \dots, v_r$  を用いて,  $V$  の任意のベクトルを 1 次結合として表すことができるとき, ベクトル  $v_1, v_2, \dots, v_r$  は線形空間  $V$  を張るという.

教科書 p.169 . 例 17, 18